

教育ニュース「響学 共動」 No. 3

今週の児童川柳

私はね そうじ名人

「がんばるゾ」(5年生)

平成 22 年 4 月 26 日

広島市立吉島小学校

児童が進級・入学し新たな年度がスタートしてはや1か月。1年生の廊下の掲示板には大判の「私の名刺」が、5年生などの教室の掲示板には「〇〇努力名人になるぞ」というこの一年間の目標、強い意志が掲げられています。そして、川柳箱にも上記のような川柳が投稿されていました。

299人の大好きな吉島っ子たち、「初志貫徹」「有言実行」に向けて、「一生青春 一生勉強」(相田みつをさん作)のたびを一緒にあゆんでいきましょう!!!!!!。

吉島小では、考え判断し、伝え合い学び合う授業が進行中 ～3年生編～

校内巡回中、黒板の前でグループで話し合い導いた解を説明している姿がみえました。一途に説明する姿に魅了された私は教室の中に誘いこまれました。三位数-三位数(692 - 458 = ?)、しかもくりさがりのあるひき算のひっ算の計算方法を説明している子どもたちでした。

黒板には、「2-8はそのままでひけません。どうしたらできるでしょう。みんなで考えてみましょう」先生からの問題提起、学習のめあて(今日の学習のゴール)が板書されています。加えて、数値は位ごとに色わけされています。

児童からは「2-8は「できない」から、となりから「1」かりてひきます・・・」「2-8は「ひく数の方が大きいのでそのままでひくことができない」から、となりから「10」かりると「12」となるから8をひくことができます・・・」などの説明が続く。また、ある児童のノートには絵で解決の過程を説明していたものがありました。この解への導き方・表し方にも感動・ガッテンです。

ひっ算が「できる」に留まらず、児童が数の大きさを意識しながら計算方法の過程が「分かる(ガッテン納得)」ことを指導のねらいにした先生。児童の説明一つひとつに傾注しまるごと受け入れ、説明の違いに着目させたい先生からは、「ガッテン納得できる説明はどの説明でしたか。どうしてガッテンできましたか」の問いが続く・・・。ひっ算のからくりを学んだ児童からは、あちこちで頷く姿がみられました。学ぶことは、さまざまな思いや考えのなかに潜む類似点や相違点を導き出す・発見することから始まるのだと認識を深めた授業参観でした。

「積小為大」(二宮尊徳の教え) 視写の継続で何かが変わる ～全学年～

廊下の掲示板には、児童が学び選んだ詩を視写した作品が掲示されています。その傍らには詩の風景画が加えられています。なかには、視写体験を「水仙がブツとラッパを吹いている」と川柳にまとめた児童もいます。

視写をすることは、語彙を増やすとともに、語句の使い方や行間を想像する力などを学び高めることができるといわれています。ましてや詩を視写することは音読することと同様に、詩の世界を想像・ほり起こさせ、詩の特徴であるリズムや色あい、温もりを肌で感じ味わうことができます。また、何だか心が潤され、心も穏やかになってくるようです。

今年は、「国民読書年」です。ご家庭におかれても、「みんなで本に親しむ日(時間)」を設けるなどされ、味わい感動した本の一節を紹介し合ったり、書き写したりされてはいかがでしょう。学校においては、読書活動の充実に努め、児童の読書の習慣化に取り組んでまいります。

